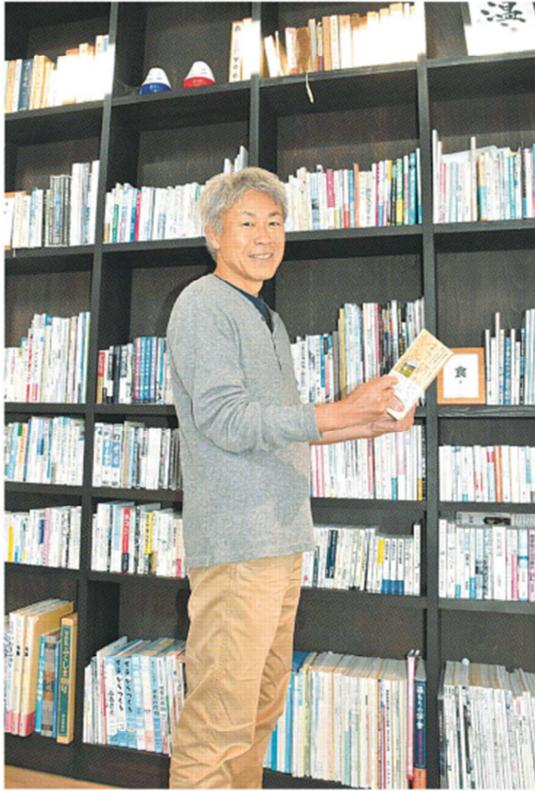


# いつか読む? 積ん読の魅力



先達によると、読書には「朗読」「目読(黙読)」、そして「積ん読」がある。積ん読とは、手元の本を読まず、積んだままにしていることをいう。眉をひそめる人もあろうが、山と積まれた未読の書籍に至福を感じる人も少なくない。そんな積ん読派に、「魅力や「絶対に読む本」「多分読む本」などを聞いた。

(須田絢一、鈴木博幸)

いわき湯本温泉古滝屋 (いわき市)の館主里見喜生さん(56)は約3年前、ロエルの一方の里見さん。昨年、ビーラウンジの壁一面に巨大な本棚を設置し、自分の本を置いた。郷土を紹介する本のほか、旅や映画、食、哲学、保護動物についてなどジャンルは多彩だ。「本があるとお客さまの話も膨らみます」。コミュニケーションのツールとして大きな役割を果たしているという。

本棚には、まだ読んでいない本もたくさん並んでいる。「本は家族みたく

「今年には朝に読書するが、意識して時間をつくっていききたい」と笑顔で話している。

「今年には朝に読書するが、意識して時間をつくっていききたい」と話している。

「今年には朝に読書するが、意識して時間をつくっていききたい」と話している。

※ワークシート「深める・広める」②③に続きます

▲ 2月4日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

---



---



---



---



---

調べてわかったこと、考えたこと (330字程度)

---



---



---



---



---



---



---



---

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

---



---



---



---



---

3人の方の本への思い、それぞれに考えさせられますね。  
 あなたは「何読」派ですか?

